設立の経緯

1880(明治13)年、大阪商業講習所として発足した大阪市立大学は、2005(平成17)年に創立125周年を迎えました。高原記念館は、創立125周年を迎えた本学に対して、本学商学部の卒業生である高原慶一朗氏より、建物の現物寄付を受けたものです。

この建物は、都市研究プラザと学友会の活動拠点とし、特に一階には学友ホールを設置し、教育研究活動だけでなく、教職員、学生、同窓生などの交流の場としての様々なイベントに活用されることを目的としています。

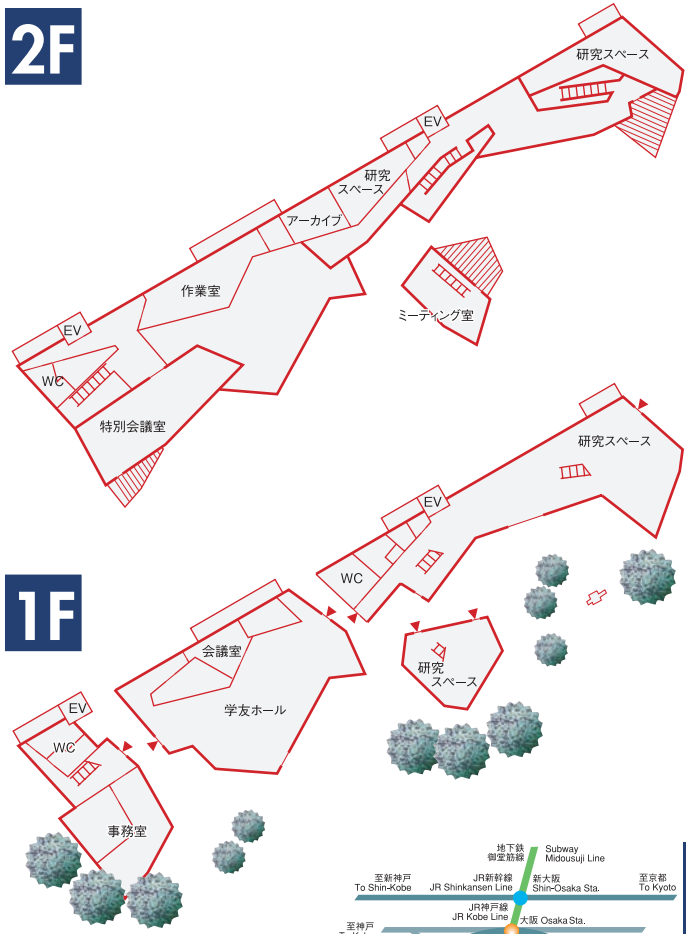
施設の概要

敷地面積	2,988.13㎡
建築面積	937.52㎡
延床面積	1,488.01㎡
構　造	鉄骨造　地上2階
空調設備	電気熱源ヒートポンプ　電気ヒーター
衛生設備	給水:既設給水管より取り出し 給湯:電気温水器 排水:汚水·雑排水·空調ドレン分流
電気設備	高圧受電方式　225KVA
防災設備	自動火災報知設備　粉末消化設備 誘導灯設備　非常照明設備　自然排煙
昇 降 機	乗用エレベーター2台
施工期間	2006年3月～2006年10月

利用時間

午前9時～午後5時
(土曜·日曜·祝日、12月28日～1月4日休館)

	収容人数	面　積
○学友ホール……	150名	285㎡
○特別会議室……	32名	110㎡
○多目的会議室…	10名	23㎡

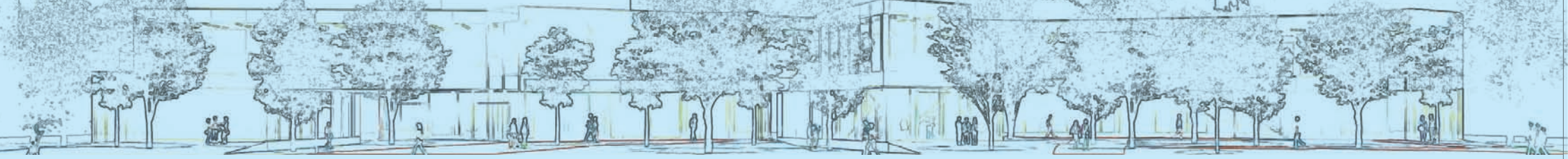


大阪市立大学
高原記念館

〒558-8585
大阪市住吉区杉本町3-3-138
TEL.06-6605-3419

大阪市立大学
高原記念館

Osaka City University
Takahara Hall



ごあいさつ

高原　慶一朗

大阪市立大学が創立125周年を迎えまして、21世紀の新しい時代にふさわしい教育と研究活動へむけて、金児学長のリーダーシップのもと諸改革に取り組まれております。

新しい大学に生まれ変わるその節目に、大阪市立大学学友会は発足し、大学を支援する体制が整いつつあります。

私はつねづね母校のために微力を尽くし、少しでも恩返しをしたいと思っておりましたところ、このたびご縁があって記念館としての建物を寄付させていただくこととなりました。

幸いにも、大阪市および大阪市立大学関係者そして鹿島建設のご協力のもと、横山先生を中心に皆様の英知を結集して、すばらしい建物がこのたび完成いたしました。すなわち、「ここしかない」「今しかない」「これしかない」の基本コンセプトのもとにできあがったまことにユニークで斬新なものになりました。私の深く喜びとするところでございます。

この記念館が新しい学びの場を提供し、大学のさらなる飛躍のためにいささかでもお役に立つことができましたらならば、私の本望とするところでございます。

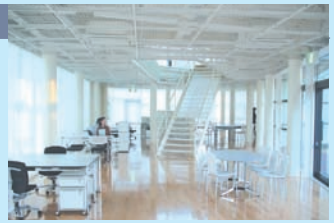
施設の利用

大学主催の行事、同窓会の開催、 教員・学生による学会等の開催に(1)学友ホール、(2)特別会議室、(3)多目的会議室を利用することができます。

利用対象者(申込者)は、大阪市立大学教職員、学生、学友会会員です。

利用申込みは、予約(学部等主催行事・学友会主催行事・学生団体等の主催行事については1年前から、教職員責任者行事については6か月前から、本学教職員参加等の行事については3か月前から、その他は1か月前から可能)のうえ、利用期日の7日前までに申込書を提出してください。
(学生による特別会議室の利用はできません)

都市研究プラザの事業



2006年春、公立大学法人としてスタートした大阪市立大学の目玉組織、都市研究プラザ(Urban Research Plaza)は、高原記念館をメインオフィスとして活動をはじめています。プラザとはまさしく、都市研究の知的創造とまちづくりの広場をイメージしてネーミングしました。このメインオフィスでは、市大の重点的な研究クラスターである都市問題研究プロジェクトをベースに、学内外の都市研究の俊英が集い、さまざまな都市課題に果敢に取り組んでいます。また街に溶け込む大学として市内に開設したサテライトプラザの船場アートカフェや西成プラザでは、イベント、ワークショップやプロジェクトミーティングなどを連続的に企画し、文化創造や持続可能な都市再生に向けた実践的な情報発信は、注目を浴びています。都市再生の国際交流拠点としても、アジア、環太平洋に海外サブセンターが21世紀COE事業とも協働して、理論的・実践的な都市研究と交流を進めています。

設計の考え方

本館(1号館)を主軸として対称に位置する旧図書館棟に建物の長さや高さを揃えて、キャンパスの中心を形成しています。緑豊かな敷地の特性を活かすよう、ガラス面が樹木の並びをなぞりながら樹間に入り込むように折れ曲がり、連なることで、緑と建物とを一体化すること、内外空間に変化に富んだ場を生み出し、両者が多様な活動の場になることを目指しています。また、外観を特徴づける再生ガラスと透明ガラスの組み合わせは、活動を外部に向けて表出し、知的な賑わいがキャンパスに拡がっていくことを意図しています。と同時に、内部は、活動の場を固定・分離する間仕切壁を極力なくしてオープンプランとすることで、多様な活動形態に応じて自由に場をつくり変えることや、活動が相互に連続・重合することを促進しています。権威や重厚さ、閉鎖性に対峙し、自由・軽快、柔軟性・関係性に満ちた空間と活動づくりによって、新たな知的プラットホームとなることを試みています。

(工学研究科　横山俊祐)